

St. Martin's University

## セント・マーチンズ大学

## 所在地

5000 Abbey Way, SE, Lacey, WA 98503, U.S.A.  
ホームページ: <http://www.stmartin.edu/>

外国語学部: 語学留学(英)/ 学部留学  
経済学部: 専門留学

## 沿革

1895年創立。聖ベネディクト教団の修道院学校として設置される。学生数は1,600名。ワシントン州レイシー市にある緑豊かな広大なキャンパスで修道院もある。学部には文系理系ともに25学科があり、大学院にも7つの専門課程がある。日本人学生も多い。2年生まではキャンパス内の寮への入寮が原則で、学生対教員比率は12:1。本学とは1988年から提携を始め、これまでに約400名の本学学生が留学している。

## 特色

- 外国語学部:  
交流協定によって設置された特別プログラム(SIR: Semester in Residence Program)がある。学費内で履修可能な授業は規定の7科目(ESL6科目+外国語1科目)のみ。プレースメントテストの結果でESLのレベル別クラスを受けるが、スコア次第で学部の授業をいくつか履修することもできる(追加履修、学部授業の履修をする場合は別途授業料を支払う)。またオフィスアワーを利用して、ニーズに合った個別の指導が受けられる。
- ※学部授業が受けられるTOEFLスコアの目安:  
・TOEFL (ITP) 525 (iBT70) 点以上。学部授業を12~18単位まで履修可能。  
・TOEFL (ITP) 480~524 (iBT55~70) 点。ESLの授業の他に学部の授業もいくつか履修可能。
- ※学部の授業を履修したい者はFall Semester に留学すること。Spring Semester に留学する場合、現地ではすでに授業が始まっているので通常の学期終了後に本学学生のみでの授業が数週間行われる。
- 経済学部:  
学部の専門留学のみ。

## 宿泊

留学中は学生寮で生活する。学生寮では原則的にアメリカ人学生との相部屋になる。

## 生活

- キャンパス内にカフェテリアがある。
- 多くのイベントがあり楽しめる。また、カンパーセーション・パートナー制度がある。
- 学生証でレイシー、オリンピアのバス路線を無料で利用できる。
- 歩いて15~20分のところにショッピングセンターやレストランがある。
- レイシーからシアトルまで車で約1時間。キャンパスの北西にはオリンピック国立公園、南東にはレーニア山国立公園があり、ハイキングやスキーを楽しむ。

## 条件

- 外国語学部: TOEFL (ITP) 450 (iBT46) 点・TOEIC 450 点以上が望ましい。
- 経済学部: 専門留学のため、TOEFL (ITP) 525 点以上。

## 留学時期

- 外国語学部: 2年次第2学期または3年次第1学期、第2学期から半年間(実質4ヶ月)または1年間(実質10ヶ月)。
- 経済学部: 2年次または3年次の第2学期から4ヶ月または10ヶ月。



大学正面



図書館



ESLのクラス風景



図書館

## アメリカでの四か月

外国語学部英語コミュニケーション専攻 2016年留学

芳賀 隼祐

アメリカに来てからの約四ヶ月間は何もかもが新鮮でした。日本にいたときから、授業内でネイティブの先生たちから英語を聞いていたのですが、いざアメリカに行くと、話のスピードや発音など、授業ではあまり聞くことのない表現があり理解することができませんでした。

授業が始まる前のオリエンテーションでは、新一年生と留学生が混ざって活動しました。仲を深めるためのゲームをいくつか行うものの、ルールを理解することができないという悔しい思いをしたことを覚えています。授業はTOEFLと先生たちとの面接の結果でクラス分けされました。自分のクラスは、Grammar, Pronunciation, Presentation, TOEFL, Writing, Vocabularyの六つです。それに加えて中国語のク

ラスを取りました。中国語は学生が自分一人しかいなかったもので、先生と一対一で英語と中国語を話せるとてもいい機会でした。週に15コマのスケジュールで進みました。自分の好きだった授業は、Grammarです。なぜなら、将来の夢が英語の教員になることなので、文法についての疑問点をたくさん質問することができました。授業外の時間にも、個別でわからないことを教えてもらうために積極的に先生のオフィスを活用し、自分だけの個別の宿題をもらうなど、とても充実した時間を過ごしました。教員になりたいことを相談したところ、自分が受けているクラス内で黒板の前に立って、先生の代わりに授業を教えるという体験をすることができました。この体験は日本に帰っても自信をもって伝えることができると思います。この先生との出会いは、自分の人生の中でとても大きいものになりました。もうこの人から教わることはできなと考えたときは寂しかったです。別れの時には、自分たちのクラスが今までで一番とほめてくれたのでうれ

しかったです。

放課後の過ごし方としては、宿題をやるために、図書館を利用しました。学生チューターに文法の間違いを直してもらい、ここでも英語についてのたくさんの質問をすることができました。また、寮で卓球やビリヤード、ジムに行って友達とバスケットボールをやったりしました。学食の料理はあまり好きではありません。正直言ってまずいものも多くありました。基本的には、大学の外に出なくても十分生活できます。大学の学生証を見れば、パスがタダになるので乗り放題です。そのため、隣町のショッピングモールに多々行きました。

自分たちには、カンパッセーションパートナーというものが設けられ、スピーキングの練習相手を割り当てられました。相手は、アメリカ人と中国人でお互いに相手の国の言語を勉強しているので、とてもいい関係でした。宿題をお互いに手伝い、時間を効率よく過ごしました。アメリカ人

の方のパートナーとは、家族に混ざって外食に連れて行ってもらいました。そこでも生きた英語を聞いて自分の思っていることを伝えるいい機会だったので貴重な体験ができました。また、毎週月曜日には、トークタイムというものがあり、ホストファミリーの家族が大学に来てくれて、自由に会話をすることができます。毎週継続していったので、子供たちと仲良くなりました。

12月には留学生を対象としたクリスマスパーティーが先生の自宅で開催されました。自分を含め、この学期で各自の国に戻る人たちがこの数か月を振り返ってスピーチをしました。中には泣いてしまう人も多かったので心にしみるパーティーでした。この留学で得た経験を日本でもプラスにして生活していきたいです。ここで培った英語に対する意識を持続して自分の将来の夢に向かって努力していきたいと思います。